

猟師に追われた鹿

鹿が猟犬に追われて、頭の角をべったり背に寝せて、ヒーヒー鳴きながら、逃げ場を失って、人家の軒などを通して遁げて行くのを、昔はよく見かけたと言いますが、子供の頃、長畑というところの畑の道を、大きな鹿が駆けてゆくのを実見したことがありましたが、畑を隔てた路をば、猟師が筒口を鹿に向けて、走っていました。

またある時、字神田というところの街道で、子供が道の傍に積んである材木の上に乗って遊んでいると、鹿が猟師に追われて、その道を走って来て、子供づれの傍を通り抜けて、川の中へ飛び込んだと言いました。するとそこに、川狩りの人夫が材木を流していて、鳶口でその鹿を撃ち殺したなどと言いました。

鹿の鳴音

猪に比べて、鹿の方は、非常に数も少なく、現今では、もはや鹿の鳴声も聞かれないそうです。

鹿はカンヨーと鳴くと言って、鹿のことを別に、カンヨーとも呼んでいました。子供の頃、丘の上に登って、カンヨー来い、カンヨー来いと続けて呼んでは、そら鹿が来たなどと言って、われ先に丘の下に逃げ込むような遊びをしたものでした。横山の字追分というところの向かいの山で日の暮れ方よく鳴くと言いますが、キョーと闇を透して物凄く響くと言います。ある人の説ではキョーと鳴く声が、雄の声と、雌の声と一緒にあって、初めてカンヨーと聞こえるのだとも言いました。